てるびっと

No.15
2009.3

2010.3月　09.12.10

京都府海外研修KYOのあけぼの会

ごあいさつ

海外研修KYOのあけぼの会
会 長　田中 田鶴子

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと存じます。

当機関紙「てるびっと」も1994年12月の創刊から15号の節目を迎えることとなりました。これもひとえに、多くの方々のご理解とご協力があってのことと感謝いたしております。

ご承知のことと存じますが、「てるびっと」とは、インドネシア語で“あけぼの”という意味があります。また、表題「てるびっと」の文字は、光栄にも当時の京都府知事・荒巻禎一様より直筆を頂戴することができ、創刊以来、その文字を使わせていただいております。優しさの中にも力強さを感じる「てるびっと」の文字から、私たちはいつも大きなパワーをいただいているような気がいたします。

そして、はからずも今年は、インドネシア・ジョグジャカルタ特別区を訪問する「インドネシア・バリ」の旅を計画しております。ジョグジャカルタ特別区は、京都府と友好提携を1985年（昭和60年）に結んでいる都市で、京都の伝統産業、西陣織、京友禅などの技術交流や協力が行われるなど、京都府とは大変関係が深く、インドネシアの古都としてボロブドゥール、プランバナンなどの世界遺産を誇る地域でもあります。「てるびっと（あけぼの）」の語源もたどりつつ、充実した研修となるよう幹事一同準備を進めておりますので、ご友人などお誘い合わせのうえご参加いただければ幸いに存じます。

また、今年秋には、京都府と京都市、京都商工会議所の共同開催で、京都産業の優れた技術や製品、日本を代表する文化や芸術、洗練された食やもてなし文化など、多くの人々が楽しめる「京都知恵と力の博覧会」（仮称）の開催が計画されております。日本を代表する京都の「知恵」と「力」を改めて内外にアピールし、元気な京都づくり、日本づくりにつながる事業として成功することを願っているところでございます。皆様もどうかこの博覧会にご注目いただければ幸いです。

最後になりましたが、私たちの活動が国際交流と女性のネットワーク作りのために、今後も皆様と一緒に活動が展開できればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

表題「てるびっと」は、前京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語（京都府友好国）「あけぼの」の意味です。
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものを表紙絵としています。

2008年度 総会・研修会

● 日時：平成20年4月4日（金）11：00～15：30　● 場所：宇治市　鮎 宗

総　会

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓紹介
4. 来賓祝辞
5. 議長選出
6. 議事　①2007年度事業報告
　②2007年度決算報告
　③2007年度監査報告
　④2008年度事業案（審議）
　⑤2008年度予算案（　〃　）
　⑥役員改選
　⑦その他

研修会　「源氏物語千年紀によせて」
— ゆかりの地散策 —

● お話「宇治十帖」　宇治観光ボランティアガイドクラブ代表　越村 春枝 先生
● 源氏物語ミュージアム・宇治上神社

ごあいさつ

京都府府民生活部男女共同参画監
長濱 英子

海外研修KYOのあけぼの会の皆様方には、日頃から、京都府の男女共同参画の推進に格別の御支援と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

会員の皆様におかれましては、昨年は「世界遺産石見銀山」を訪れ、世界遺産登録に関わってこられた女性の講演等を聴き、女性が古くから深く地域づくりに貢献してきたことや、次の世代に伝えるための自然と人間の関わりなど、環境保全について研修されました。KYOのあけぼのフェスティバルでは、その成果を京都の未来につなげるために、多彩な特性を持つ「京都」の魅力を今後どのように地域づくりに役立てるかについて、学習を深められました。

京都府では、一昨年より「地域力の再生」を目標に掲げ、皆さまとともに積極的に取組を進めて参りました。国においても女性が中心的役割を果たす地域活動の重要性が取り上げられており、世界的な金融危機による景気の後退から生活への不安感が拡大している今、地域を元気にする女性の活躍がますます期待されるところです。そして、女性も男性もいきいきと活躍することができる男女共同参画社会の実現こそが、「地域力の再生」の大きな力になると考えております。

今後とも地域社会のリーダーとして、京都府の男女共同参画社会の実現に御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

春の総会・研修会

桜花爛漫の宇治川の畔に35名の出席を得て開催。19年度事業及び決算報告、20年度事業及び予算について審議。昼食会。

午後は源氏物語千年紀にちなみ、「宇治十帖」についてお話を聞きました。越村先生は「宇治十帖」は宇治川なくしては生まれなかったと、源氏物語の魅力をお話くださいました。その余韻に浸りつつ、宇治川に浮かぶ屋形船を眺め、世界遺産宇治上神社と源氏物語ミュージアムへ。皆様との交流が深まった一日となりました。

お話・越村春枝 先生

世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観を訪ねて

―石見銀山を支えた女性たち―

平成20年(2008) 6月16日・17日
主　催：海外研修KYOのあけぼの会

世界遺産とは二度と再現することが不可能で、人類共通の未来に伝えていくべき価値があり、民族や国境を越えて、国際的に協力して保護する必要がある文化財のことを言います。また同時に世界遺産条約に基づく世界遺産リストに記載されている物件を言い、登録数は851件、うち日本の世界遺産は14件で、法隆寺をはじめ姫路城や厳島神社、原爆ドームなどの文化遺産が11件、屋久島や白神山地、知床の自然遺産が3件となっています。

事前学習会

石見地方の地図

銀山の歴史と登録までの道のり

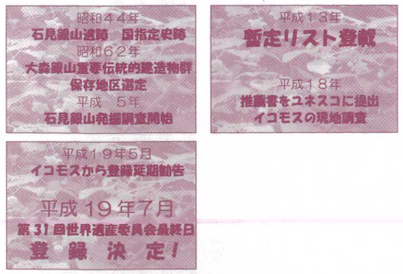
ポルトガルの宣教師テイセラの日本図

鉄鍋で銀をとる灰吹法

折れた秤＝俺ばかり

神屋寿禎（かみやじゅてい） 海から山を発見

登録までの道のり



大森の町並み

1日目／事前学習会

講師の和上豊子先生は元学校教師で、教育委員を経て退職後「石見銀山ガイドの会」を立ち上げられ、現在は会長として活躍されています。先生は地元育ちで、子供の頃から繰り返し聞かされた豊かな歴史や秘められた魅力を伝えたいと、自らも世界遺産登録に関わってこられ、登録にいたるまでのご苦労話を、スライドを通し、身振り手振りの歯切れのよい口調でお話しくださいました。

私たちは誰もが先生の魅力ある語り口に、「ああよかった」「もっと聞きたい」「すばらしいお方や」と時を惜しみました。本当にいい事前学習の場となりました。

1)複合遺産「石見銀山」の位置図

日本海に面する島根県大田市大森町のおおよその地図です。

銀山・大森地区を中心にして、海運で栄えた**鞆ヶ浦港と沖泊港**を結ぶ、440ヘクタールの広さがあります。この産業遺産の一部である、銀山地区と大森地区を見学しました。

2)石見銀山の歴史

①16世紀から17世紀に世界の銀の産出量の3分の1を日本が占めていました。そのほとんどが、この石見銀山から採掘されていたのです。マルコ・ポーロの「ジパングの宝の山」がこの日本地図の石見だったのです。

②なぜ、石見銀山が繁栄したのでしょうか。

一つ目に精錬用の燃料の薪が周囲の森林から得られたこと、二つ目は鉱山用具や資材となる鉄やマンガンなども石見の山々に産出したこと、三つ目はすべての作業が**ノミ**や**タガネ**を使った人力による手工業的生産が行われていたことの3点があげられます。

それに加え**「灰吹法（はいふきほう）」**という技術が中国から伝わり、開発されたことでした。炉の下にくぼみをこしらえて灰をつめ、その上に金銀と鉛の混合物をのせて加熱すると、鉛は溶け出して灰に吸収され、後に金銀の塊だけが残るという方法です。この方法でできたのが「灰吹銀」でした。

③さて、石見銀山はどうして発見されたのでしょうか。

1526年、安土桃山時代、博多の貿易商人**神屋寿禎**が、航海に出ようとした時、商売道具の秤が折れたので、縁起が悪いと嘆いていると、おかみさんが**「折れた秤」**は**「俺ばかり」**といって運がむいてきたのだと船を送り出したところ、ほどなく船上から光り輝く石見の山を発見したということです。その後、銀の争奪戦が長く続き、勝ち取った人によって、様様な歴史に塗り替えられてきたそうです。

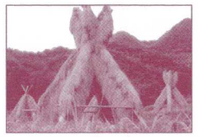
3)世界遺産登録までの道のり

すでに銀山の遺跡は「国指定史跡」であり、大森の町並みは「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

平成 5 年　発掘調査スタート
平成13年　暫定リスト登載
平成18年　ユネスコ世界遺産センターに**推薦書**提出
　イコモスの現地調査
　・物件が保護されているか
　・バッファゾーンといってゆったりとした環境の設定がされているか、
　・まわりに景観を損ねているものがないかなどのチェック
平成19年5月　イコモス**登録延期**という勧告
　19年7月　**登録決定**

高いハードルを乗り越え、延期勧告の二ヵ月後の七月に一変し、世界遺産委員会の**最終日に登録決定**となりました。その認められた「普遍的価値」とは「16世紀からすでに環境に配慮し、自然と共生した鉱山経営が行われてきたこと」「鉱山や町並・街道・港・生産・輸送・支配・信仰などがセットで残っている」ことなどでした。

保全活動


ヨズクハデ

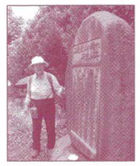
女性たちの活動

商家熊谷家

竹筒に花を生ける

いよいよ石見銀山へ

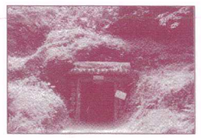
銀山への道



仙ノ山

大森小学校の子供たち

龍源寺間歩



4)保全活動と女性の活動

①登録されて1年、**保全**にむけての新たな活動
　人と自然とのつながりによる地域活性のため「石見銀山行動計画」の立ち上げ
　伝統行事「**ヨズクハデ**」（石見地方独特の稲木かけ）の作業体験
　「銀の道ウオーク」などの参加型の事業

②地域では、行事、見学会、現地指導、住民説明会など毎年、年間150回くらい開催。

③現在、**地域を守る活動**をされている主な女性たち
　「重要文化財・熊谷家の家のおんなたち」は修理や修繕など、文化財住宅の新しい運営
　「いも娘（むす）」さんは竹筒をつくって軒先に吊るして花を生け、町並みを美しくする取り組み

2日目／いよいよ石見銀山ど真ん中へ

①まず、一般車両の乗り入れ禁止の**パーク アンド ライド方式**を取り入れているので、大森地区の代官所跡で路線バスに乗り換えました。それは環境に配慮した方法で感心しました。

②私たちは、見学の要である龍源寺間歩へ向かいました。

③早速、昨日の続きの名調子で、さりげなく、それでいて凛としたお話し振りに私たちの目は輝きます。

④銀山間歩のバス停で下車した私たちは、なだらかな遊歩道をゆったりと歩きました。**銀山への道**を少しご紹介いたしましょう。

⑤後になったり先になったり皆さんキョロキョロされて興味津津でした。皆さんが見上げている山が、銀の山すなわち**「仙ノ山」**です。この山の発見にまつわるお話に聞き入っていましたところ、偶然にも先生方に引率された**大森小学校の子供たち**に出会いました。

⑥校外学習とのことで、地域の文化財の保全や、歴史的遺産の見学など、理解を深めるための学習の場に遭遇することができました。その子供たちの明るい笑顔に、これからの石見銀山を守り続けていく未来をみたように思いました。生徒さんと一緒に「記念写真、はいポーズ」和やかな一コマとなりました。

⑦さて、遊歩道沿いの山の斜面には、人一人が入れるくらいの坑道をいくつか見ることができました。光の当たらない湿っぽさが何かいにしえへの思いが伝わってくる思いがしました。

⑧やっと**龍源寺間歩**に到着です。

⑨龍源寺間歩についての説明をお聞きしました。石見銀山では銀を掘り出す坑道を「間歩（まぶ）」と呼びます。大小様々なものがあって、600以上も確認されています。

⑩間歩の入り口に立った時、ひんやりとした風を頬に感じて一種の感動を覚えました。今から480年ほど前に銀山として栄え、世界でも質の高い銀を掘り出した場所です。そこに私たちが立っている、そのことが遺産だと思います。

⑪坑道は人が歩ける高さと幅がありますが、左右の壁面から掘り進んだ穴は非常に狭く、その数20余り、よくこんな場所で、採掘したものだと驚きも束の間、**ふんどし、むしろ**といういでたちや、木綿半纏を着ている**絵図**には、水抜き用の穴や、たて坑で連結をした酸欠対策の穴や、運搬を目的とした坑道が描かれていました。

⑫その坑道にはノミの跡を繊細に見ることができました。

⑬大森地区は自然に囲まれた緑豊かな所です。銀山が栄えていたときには広大な柵で囲まれ、銀山柵内（さくのうち）と今でも呼ばれています。その山道の両側には家が立ち並び、山の頂上まで軒伝いに歩けたそうです。当時20万人の人口で、鉱夫の平均寿命が30歳であったことから苛酷な生活がうかがえます。生活保障として3歳以下の子供には日に3合の米が与えられ、病人には塩が配られたということですが、女、子供を問わず、家族はともに働いて鉱夫を助けていたようです。今はその面影もなく、美しい緑の里山の道端に、可憐な花が訪れる人を慰めてくれていました。

第20回 KYOのあけぼのフェスティバル2008

海外研修KYOのあけぼの会ワークショッププログラム

日時 平成20年10月12日13:30～15:30　**場所** 京都テルサ

主催 海外研修KYOのあけぼの会

1. 開会挨拶：海外研修KYOのあけぼの会会長　田中田鶴子
2. DVD上映：世界遺産石見銀山遺跡とその文化的景観を訪ねて
   石見銀山の世界遺産登録までの歩みや女性たちの関りを学ぶとともに、地域活性への関り方を発表しました。
3. 講演：「世界遺産は地域の宝か
   ー世界遺産から考える「京都」の地域文化と人へのまなざしー」

   講師：立命館大学 文学部教授 中本 大 先生

講師プロフィール

1988年　大阪大学文学部国文科卒業
1994年　大阪大学文学研究科国文学博士 修了
1998年　立命館大学に勤務
文学修士　文学博士

講師からのメッセージ

室町時代の禅林文学を研究対象とし、室町時代五山禅林文壇の特質を連歌壇・歌壇・画壇等他の伝統文化に与えた影響についても考究しています。

4. 質疑応答
5. 閉会

歩みをパネルで紹介

田中会長開会の挨拶

DVD 上映

会場風景

文化遺産と現代社会

あけぼのフェスタ2008で海外研修KYOあけぼの会のワークショップに興味深く参加させていただきました。

私は宇治市民でありまして、世界遺産に京都市内の遺跡と同じく指定されました宇治上神社、平等院は大好きな場所です。貴会のフィールドワークの石見銀山がリベンジで指定され、地域の人々の喜びが報道されたことを憶えています。銀を求めて世界の注目を浴びていた島国の山や港を後世に残すべきです。

平等院の周辺では市の中心街でありましてマンション建設という経済活動がある訳で寺院内の植物は平安時代の木というように守られていますが、他にも歴史的価値のある場所を保存していくように気がついたものが声を上げなければなりません。

ふるさと京都であり続けますようによろしくお願いいたします。

西岡　ひろ

海外研修ワークショップに参加して

京都の歴史情報が市民に今以上に必要であると思う。

ワークショップ「世界遺産から考える京都」に出席させて頂き京都の歴史の奥深さを発見しました。町は時代の変遷とともにその姿を変えている事に今一度考えて私の六十八年間の思い起せるまでの景観の記憶をたどり自分の中で修正する時間を持つ事が出来ました。これからは地域の力で歴史を辿り守り育て良好な景観にして行く事を後代に伝えて行くのが女性の力かも。

中本大先生の講演は分りやすく今度石見銀山遺跡に行ってみたく思っています。きっと何の知識もなく行ったなら石見銀山の価値は分らないと思いますがDVDを鑑賞させて頂き、内容を知ってから興味が湧いて来ました。洞窟のような坑道と町並を想像しています。

ワークショップに出席させて頂き感謝しています。

菅野　利子

「KYOのあけぼのフェスティバルワークショップ」に参加して

立命館大学教授　中本　大

立命館大学文学部で教員をしております、中本大（なかもとだい）と申します。昨年十月、ご縁でKYOのあけぼのフェスティバルワークショップにお招きいただき、「世界遺産は地域の宝か一世界遺産から考える「京都」の地域文化と人へのまなざし一」と題するお話しをいたしました。その折、当日のメインイベント、石見銀山で意欲的に学ばれた会員の皆さまの報告に感銘を受けつつ、石見の魅力を発信しようと努力される地域の方々の熱意に引き締まる思いをいたしました。

「世界遺産」と言えば京都です。古都京都は日本を代表する多くの歴史的文化的遺産に囲まれているにも関わらず、そうした資源が必ずしも有効な地域振興の契機となり得ていないことに私は常々、漠然とした違和感を抱いておりました。その理由の一端が、図らずも石見の方々の地域への敬愛に基づく取り組みと比較することで、はっきりしたように感じました。観光客をはじめ、京都の歴史遺産を訪れる人々は、文化財を通して日本の美意識の結晶としての「京都」、「京都」の幻想を見ておられるようです。千年の古都である「京都」ですから、それは当然のことと思われるでしょう。しかし、歴史的建造物は、建造された土地の歴史と切り離して鑑賞することはできません。逆に地域の歴史的風景や景観の変遷に思いを馳せるきっかけになるものが世界遺産なのです。そう考えると、認定された世界遺産の数だけ個性的なまちづくり、地域振興のモデルが提案できるのだ、ということもお分かりいただけると思います。講演当日はふつつかな試論を提示し、多くの方々から貴重なご意見を頂戴いたしました。あらためてお礼申し上げます。

立命館大学文学部では今年四月から「京都学」専攻を立ち上げます。歴史学・文学・地理学といった人文学の手法に基づく地域研究の新しいかたちを示しつつ、地域の歴史・ひと・こころに学びつつ地域連携の可能性を模索したいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

フェスティバルに参加して

三年ぶりにフェスティバルに参加させて頂き有意義な一日を過ごすことが出来ました。

先ずオープニング　平安神宮雅楽会の方による笙（しょう）・篳篥（ひちりき）・龍笛（りゅうてき）による管楽器の生演奏を聞き優雅な音色に歴史の重みを感じ入りました。

午後は世界遺産石見銀山で体験学習をされた皆さんのきめ細やかな成果の映像を鑑賞しました。そのあと立命館大学教授中本大先生の講演を聴講させて頂きました。先人の知恵と苦難と努力により建築された立派な建造物、景観・眺望・平安京以来今日まで脈々と受け継がれている貴重な数々の遺産であると云う事を学ばせて頂きました。

私達の住む地域に思いを馳せる時、やはり昔から延々と受け継がれている有形・無形の財のあることにも改めて認識を深めました。立派な神社、寺院、かけがえのない自然美等々の財産を後世に引きついで行くには住民の意志統一が必要であり、それが今を生きる私達の役目であろうと強く感じました。

平井　操

京都の自然と文化と人について

女性の視点から関わり方について考えてみました。

○**地球温暖化**の中で、私たち大人は昔の人たちが守り続け、受け継いできた貴重な**京都の自然と文化**を後世に、引き継いでいくためにも、子供たちに教え、伝えなければなりません。

○京都では年間5千万人の観光客がありますので、交通渋滞も大きな問題です。
パーク アンド ライド方式の検討も必要だと思います。

○近年、豊かな自然の残る郡部では、**限界集落**といって、人が住まなくなり、消えていくおそれのある地域が少なくないといわれています。ふるさとがなくなってしまっていいのでしょうか。

○**地域に根ざした活動**のためには、女性が主導し、**おだやかなつながりの核**となって展開していくことが、これからの地域にとって多くの可能性に満ちていると男女共同参画白書には記されています。

以上四つの事を、これからの私たちの課題として掲げ、学び、深め合う場作りにつなげ、努めてまいりたいと願っております。

京都の自然と文化と人について